

Akatake Times

Vol. 64
(通算 第217号)



明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。
社長は変わりましたが、事業方針は変わらず、今後も粉体ハンドリング事業に注力し、
売上よりも利益を重視していきます。お陰様でここ数年は堅調ですが、
「まだまだ課題は多い」が社内の共通認識だと思えます。
企業に不可欠である顧客と社員に満足、魅力を感じてもらうことが社の存続、
発展の必須条件です。「顧客にさらに良い製品・サービスを提供できる環境作り」と
「社員の皆さんにさらに働き甲斐、働きやすさを感じてもらえる環境作り」をテーマに、
課題の解消を目指します。

代表取締役社長 赤堀 芳太郎



本欄では、今後の我が社についての私の考えを、記していきたいと思えます。

◆ 「良い製品とは」

良い製品(製品力)の本質は、提供価値(機能。この製品で何が出来るか)、安全性、品質、使いやすさ。第二に価格(リーズナブル)、納期ではないでしょうか？
よってこれらを、製品開発、製番案件ともに高められる環境作りが目指すところです。

◆ 「提供価値をどう高めるか？」

提供価値は、①顧客のニーズの把握 ②それを実現する技術力で最大化できます。
顧客のニーズには、顕在ニーズと潜在ニーズ(顧客も気づいていない、言語化出来ない)があると言われます。顕在ニーズは既に先行製品がありますから、潜在ニーズを見つけることです。または、顕在ニーズでも困難なものを実現する技術力を備えること、このいずれかで提供価値は最大となり、いわゆるオンリーワン製品になるのでしょう。
新製品の開発はもちろん、通常の引合案件においても、潜在ニーズの掘り起こしが競合他社への優位につながります。

◆ 「技術力」

技術力がメーカーの真価です。工場での組立技術、現地作業技術も当然技術力ですが、ここでは設計に絞ります。我が社の技術力は、粉体ハンドリングと一般工学(機電)の領域に分類できます。いわずもがな、我が社の製品価値の源泉は、粉体ハンドリングの技術です。技術力は知見の蓄積にほかなりません。「こうしたらうまくいった」、「こうしたらダメだった」の蓄積が知見です。まず単純に、この蓄積を強化しなくてはなりません。同時に、抽象化も必要です。知見は抽象化しないと次に使えません。数式化、理論化は抽象化の究極です。
例えば小麦粉の引合が来たら、小麦粉の過去の実績を活用できそうですが、他の粉体でも小麦粉と同一の特性を持ち、過去の実績を活用できるものがあるかもしれません。逆に同じ小麦粉でも銘柄が違えば全く異なるかもしれません。実粉で試してみるほか無いわけです。実粉テストの重要性を否定するつもりは毛頭ありませんが、これでは大変だし、知見の活用が限定的で、技術の発展が難しいのではないのでしょうか？
ではどうするか。粉体物性、粒度分布、せん断特性、代表粒子形状、静電気特性などのデータを確実に採取していく必要があるのではないのでしょうか？「粉の顔を見る」といいますが、突き詰めればこれらになるのでしょう。装置に通した際の結果、挙動も測定項目を統一する必要があります。かつて、粉体関係の大学の先生に、「企業の方がよほどデータを持っている」と言われたことがあります。たしかに我々は日々、実に様々な粉体に接しています。これらのデータを確実に蓄積、知見化しなくてはもったいないです。
また、技術力の発展にはチャレンジが欠かせません。同じことをしては、競合も多くなります。しかし、チャレンジにはエネルギーが必要です。機会づくり(実製番では大変)、環境づくり(実証テスト実施能力の増強)、風土づくり(失敗を責めない)などが必要です。

◆ 「技術力に関する我が社の事情」

我が社の場合、顧客の価値ニーズには純粋な技術的ニーズ以外に、プラントとしてまとめてほしいという、実務的ニーズも含まれます。またプラント以外の案件も、ベース製品はあるものの、案件毎に大きなアレンジ設計(時には新規開発!)が必要で、技術力の発揮には、担当者に対する組織のバックアップが欠かせません。

つまり、組織遂行力、オペレーション力といった実務力が、純粋な技術力と不可分であり、「技術力(設計)=粉体ハンドリング技術力+一般工学技術力+プラント構成力+組織遂行力」といえます。総合的に高めていかなくてはなりません。

◆ 「最後に」

今回は製品の提供価値創造に絞って記しました。皆さんも色々アイデア、問題意識をお持ちです。それらを実施するにはリソースの増強が必須です。さらなる投資も必要でしょう。業務の圧縮削減による人的リソースの適正化も図り、皆で何をやるべきか、どうやるか、協議して進めていきましょう。大企業や優れた企業の多い業界ですが、「粉体ハンドリング技術といえば赤武エンジ」を目指します。一步一步進んでいきましょう。